

生徒質問調査から

教科に対する学習意欲に関する調査結果（生徒質問調査より）(%)

中学校 国語		R5 名古屋		R5 全国		R6 名古屋		R6 全国	
Q 好きですか	当てはまる	23.2	58.5	23.6	61.4	26.5	63.7	24.4	64.3
	どちらかといえば	35.3		37.8		37.2		39.9	
Q 大切だと思いますか	当てはまる	58.8	91.9	60.0	92.4	59.7	92.5	62.4	93.9
	どちらかといえば	33.1		32.4		32.8		31.5	
Q よく分かりますか	当てはまる	29.2	78.8	30.4	80.0	35.1	83.7	32.0	82.7
	どちらかといえば	49.6		49.6		48.6		50.7	
Q 役に立つと思いますか	当てはまる	50.5	87.5	52.3	88.7	46.7	88.3	52.3	90.6
	どちらかといえば	37.0		36.4		41.6		38.3	

今年度の名古屋市の国語の学習に対する生徒の意識調査の結果について、各設問における肯定的な回答の割合を比較すると、国語の学習が「大切だと思う」（9割強）、「役立つと思う」（9割弱）であるのに対して、「好きだ」と回答した生徒（63.7％）はR5（58.5％）に比べて数値は低いものの増えている。また、「よく分かる」と回答した生徒（83.7％）も、R5（78.8％）に比べて増えており、全国平均（82.7％）を上回っている。継続してわかりやすい授業づくりに取り組むとともに、国語の授業が「好きだ」と生徒が思えた要因を学校や個々の授業において分析して、生徒の学習活動の質を高めたい。

良好な点

＊目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。



ノートやメモに情報を整理しながら目的や意図に応じて必要な情報を取捨選択する場面を意図的に設けるなど、継続して考えの形成を重視した学習活動を取り入れましょう。

＊具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

説明的文章における文章のまとめ方や論の展開を取り上げ、事例（具体）がどのようにまとめ（抽象）られているか、確認するなど、継続して具体と抽象の概念理解を深めましょう。



課題点

＊話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることに課題がある。

設問〔Ⅰ四〕の名古屋市の正答率は39.2％（全国44.7％）、無解答率は12.8％（全国9.9％）であった。「【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのがわかるように書く（条件②）」ことができていない（解答類型3 18.2％）、「フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書く（条件①）」ことができていない（解答類型4 15.0％）。話し合い活動の際には、意図的に他者の発言と関連づけて話し合ったり、自分の考えを整理しながら発言させたりするなど、話し合いの目的や意図を確認させ、学習活動を充実させたい。

➡ 授業改善例①へ

＊目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

本設問〔Ⅱ四〕の名古屋市の正答率は43.1％（全国42.6％）、無解答率は9.3％（全国8.4％）であった。「選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げて書く」ことができていない（解答類型3 33.6％）。本設問にある「着目する内容」のように要約をする観点を明示し、目的に応じて文章の必要な情報を整理しながら要約する活動を取り入れたい。まとめ方がわからないという生徒には、着目した内容の異なる要約文を比べさせてから、何の内容に着目した要約か考えさせるなど、逆の展開も工夫できる。

➡ 授業改善例②へ

授業改善例①

課題について（調査結果の概要）

この問題をチェック→ (1) 四

学習課題

資料をもとにグループで話題を決めて話し合しましょう。

【エコーチェンバー現象の資料】

SNSなどで、考えが近い人々が集まり、同じような情報や話題が繰り返されることで特定の意見のみが正しいと信じてしまう現象のこと。

出題の趣旨

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題である。

指導事項

〔第1学年〕 A「話すこと・聞くこと」(1) オ

授業改善のポイント

ポイント① 友達の発言と関連づけて話す。

学習指導要領の「国語科の改訂の趣旨及び要点」に示されているように、これまでの全国学力・学習状況調査において「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること」に課題があることが指摘されていることに注目したい。自分の言いたいことだけを伝えるのではなく、友達の発言と共通点や相違点を整理して関連づけながら話すことで、より自分の考えや立場が明確になることを実感させることが大切である。そのためには話題や話の展開を捉えながら話すことが求められる。

ポイント② 話し合いの目的を意識する。

条件に示された「～について取り上げながら、これからどのようにしたいかを具体的に書く」ことは、山岡さんの最後の発言「皆さんは、これからどのように本を選ぼうと思いますか」という問いかけに対する答えをまとめるという、話し合いの目的に答えることであることを押さえたい。解答類型4（15.0%）の生徒は、山岡さんの問いかけに答えようとしている目的をしっかりと捉えていなかったために、条件に即した解答にならなかったということが考えられる。

指導例

改善場面

○ 発言を関連づけられない生徒への支援



S1：みなさんは、【エコーチェンバー現象の資料】にあるような経験がありますか。



S2：私はそうした経験はありません。ただ、SNSでなくても、私の場合、好きな本やアニメなどが同じ人が集まり、盛り上がりすぎて、興味のない人に対してなんて理解のない人だと距離をおいてしまったことがあります。

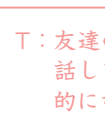


S3：ありません。

T：S3さんは、S2さんと同じような経験をしたことはないですか？



S3：そう言われてみると、私も同じような経験をしたことがありました。知らず知らず、意見の違うと思われる人をなんとなく避けてしまって、どんどん気持ち的に離れてしまうような感じです。



T：友達の意見と関連づけて似たような体験を話してくれたことで話し合いの展開が具体的になりましたね。



S4：私は、エコーチェンバー現象のことを意識すると、自分の周りにどんな意見の人がいるか改めて見つめてみる必要があると感じました。みなさんはどう感じましたか。

T：S4さんの問いかけに対する答え方ですが、さきほどのS3さんの発言のように友達の意見と関連づけて話すと話が具体的に広がりそうですね。友達の発言とつなげながら答えてみましょう。



授業改善例②

課題について（調査結果の概要）

この問題をチェック→ (② 四)

学習課題

目的に応じて必要な情報に着目して要約しましょう。

出題の趣旨

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題である。

指導事項

〔第1学年〕 C「読むこと」(1)ウ

授業改善のポイント

ポイント① 要約に必要な内容に着目する。

要約をするために文章のどの内容に着目すべきかを確認する必要がある。本設問では、条件に示されている「筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているか」、「筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているか」に着目しながら、それらが文章中でどのように示されているか、確認することが求められる。

また、正答の条件を一つも満たしていない解答が、名古屋市 13.9% であることから、問いに対してどのように答えたらよいかわからない状況も考えられる。要約するために何をどうすればよいか具体的に示して活動の見通しをもたせたい。

ポイント② 情報と情報との関係に着目する（具体と抽象）。

相手の理解を促すために具体的な事例を挙げて要約するのか、簡潔に言い換えられた抽象度の高い言葉を用いて要約するのかなど具体と抽象の関係の理解が要約の質を高めることにつながる。目的に応じて要約の仕方を工夫するためには、具体と抽象の関係に着目できることが求められる。

指導例

改善場面

○ 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができない生徒への支援



S 1：今読んでいる教科書の文章は情報量が多すぎて、理解するのが大変です……。



S 2：私もです……。文章の内容も専門的で難しく、筆者が何を伝えたいことを読もうとしても、文章に書いてあること全部が大事に思えてきてしまいます……。

T：なるほど。それでは、教科書の文章の内容を理解するために文章を要約してみましょう。



S 2：文章の内容が理解できないので要約すると言っても……。

T：それでは、要約するために着目すべき内容を整理してみましょう。これまで学んできた説明文を読むときのポイントを思い出しながら、考えてみましょう。



S 2：筆者はせっかく具体例を挙げて説明しているわけだから、何を説明するために具体例を挙げているか注目するのはどうだろう。



S 1：いいね。そういうことなら、何度も繰り返されたり、言い換えられたりしている語句や表現に注目すると筆者の伝えたいことの理解が深まる気がします。どうですか。



S 3：前の説明文の学習では、共通点と相違点を整理しながら論を展開する文章を読みましたね。今回の文章でも事例を比べながら論を展開しているので、事例の共通点や相違点に着目するものよさそうですね。

T：文章の内容を理解するために着目する内容がたくさんでしたね。それではさっそく文章を要約してみましょう。何に着目して要約したかがわかるようにメモを残しておきましょう。



生徒質問調査から

教科に対する学習意欲に関する調査結果（生徒質問調査より）(%)

中学校 数学		R5 名古屋		R5 全国		R6 名古屋		R6 全国	
Q 好きですか	当てはまる	29.7	57.1	29.1	56.7	34.7	62.1	29.4	57.2
	どちらかといえば	27.4		27.6		27.4		27.8	
Q 大切だと思いますか	当てはまる	49.9	85.7	49.8	85.0	55.1	88.0	52.8	87.2
	どちらかといえば	35.8		35.2		32.9		34.4	
Q よく分かりますか	当てはまる	33.6	72.4	33.9	73.3	42.0	81.9	35.1	75.7
	どちらかといえば	38.8		39.4		39.9		40.6	
Q 役に立つと思いますか	当てはまる	36.6	75.5	38.8	75.8	40.6	78.0	40.0	78.5
	どちらかといえば	38.9		37.0		37.4		38.5	

今年度の名古屋市の数学の学習に対する生徒の意識調査の結果について、各設問における肯定的な回答の割合を比較すると、数学の学習が「大切だと思う」と回答した生徒は88%、「役に立つ」と回答した生徒は78%であった。これにより、数学の重要性や有用性に関する生徒の意識が高まっていることがわかる。また「よく分かる」生徒の割合は81.9%であり、前年度の結果を9.5ポイント上回っている。一方、数学の学習が「好きだ」と回答した生徒は62.1%にとどまっており、数学の学習への関心・意欲の向上が引き続き課題である。今後も「分かる」授業,「楽しい」授業のための一層の授業改善が求められる。

良好な点

* 数と式では、正負の数の計算技能の定着が見られる。



問題場面における考察の対象を明確に捉え、正負の数の計算をするようにしましょう。

* 関数では、2つのグラフのy軸との交点について、その意味を事象に即して正しく解釈することができる。

事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、グラフの傾きや交点の意味を、問題場面に即して正しく解釈しましょう。



課題点

* 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

設問〔6〕(2)の名古屋市の正答率は38.8%（全国35.9%）、無解答率は22.0%（全国23.5%）であった。結果や解決方法の見通しをもち、それに沿って文字式を変形することができなかつたり、不十分な説明にとどまってしまう生徒がいると考えられる。

事柄が成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明することができるよう指導することが大切である。また、これらの説明をよりよく洗練させていく活動を工夫して取り入れていきたい。

➡ 授業改善例①へ

* 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

本設問〔8〕(2)の名古屋市の正答率は22.5%（全国17.1%）、無解答率は16.6%（全国16.4%）であった。「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを求める方法を数学的に表現できなかったり、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の差を求める方法を誤って捉えたりしている生徒がいると考えられる。問題解決のために数学を活用する方法を考え説明できるように指導することが大切である。具体的には、両者のストーブの使用時間の違いを求める方法について、不十分な説明を意図的に取り上げて、式やグラフをどのように用いればよいかを説明する場面を設定したい。

➡ 授業改善例②へ

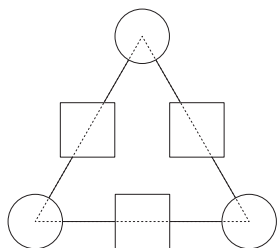
授業改善例①

課題について（調査結果の概要）

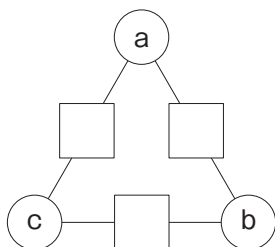
この問題をチェック⇒ (6)(2))

学習課題

下の図は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。○に入れた整数の和と□に入る整数の和の間にはどんな関係があると予想できますか。



また、○に入れた数を a , b , c として、予想が成り立つことを説明しましょう。



出題の趣旨

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題である。

指導事項

[第2学年] A「数と式」(1)イ(イ)

授業改善のポイント

事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるようにする。

「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」ことを説明するためには、□に入る整数の和を表した式 $(a+b)+(b+c)+(c+a)$ を $[2 \times (\text{○に入れた整数の和})]$ という形にすればよいという見通しをもたせたうえで、文字式を変形していく学習場面を設定することが大切である。

生徒同士の対話を促していくことにより、説明をよりよく洗練させていく学習過程を重視したい。

指導例

改善場面

○ 解決方法の見通しがなかなかもてない生徒への支援

T: $(a+b)+(b+c)+(c+a)$ をどのような式に変形できたらよいでしょう。言葉の式を使って表すと、どうなりますか。



S1: a , b , c それぞれが2回出てきています。



S2: 「 $2 \times (\text{○に入れた整数の和})$ 」の形になれば、よいのかな。

T: うまく式を変形できるでしょうか。やってみましょう。



S1: 実際に式を変形してみると、 $2(a+b+c)$ という形になったけど……。



S2: $(\text{□に入る整数の和}) = 2 \times (a+b+c)$ と表現できるのかな。

T: ここまでのことを言葉で説明してみましょう。



S1: $a+b+c$ は○に入れた整数の和だから、 $2(a+b+c)$ は $2 \times (\text{○に入れた整数の和})$ ということかな。

T: 2倍になっていることがいえました。



授業改善例②

課題について（調査結果の概要）

この問題をチェック⇒ (8)(2))

学習課題

ストーブを使用し始めてから 18L の灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

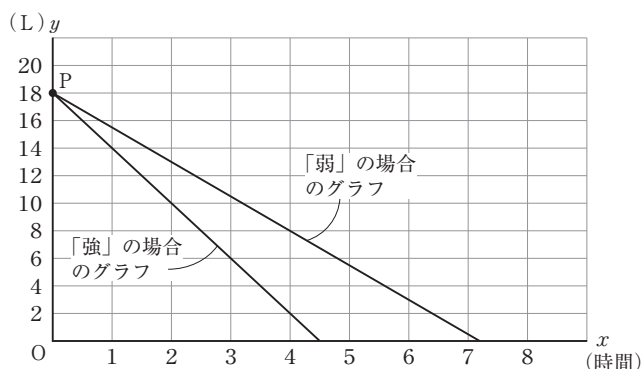
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1 時間あたりの灯油使用量 (L)	4.0	2.5

次のア、イのどちらかの方法を選んで求める方法を説明しましょう。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ



出題の趣旨

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題である。

指導事項

〔第 2 学年〕 C 「関数」 (1) イ(イ)

授業改善のポイント

問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れる。

ストーブを使用し始めてから 18L の灯油を使い切るまで

の「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いはおよそ何時間になるか求める方法について、式やグラフをどのように用いればよいかを説明する場面を設定する。

その際、解決の方法としての表現が〈不十分な説明〉を教師が意図的に取り上げて、問題解決の見通しを共有した場面や使用時間の違いを求める場面を振り返りながら、グループや全体で十分に説明していく場面を設定していく。

指導例

改善場面

- 不十分な説明にとどまっている生徒に対して、よりよい説明への改善を促すための支援

〈式で考えた場合〉

T: 灯油を使い切るということは、何を示しているでしょうか。



S: y 軸が灯油の残量を示しているから y に 0 を代入すればよいのかな。



S: どの式に代入すればよいかわからないから、「強」と「弱」の式それぞれの y に 0 を代入すればよいのかな。



T: y に 0 を代入して、x の値を求めると何がわかりますか。



S: x の値は、灯油が 0 になった時間がわかるから、それぞれの差を求めればよいんじゃないかな。



T: 解決の方法はどのようにまとめるとよいでしょうか。考えてみましょう。

〈グラフで考えた場合〉

グラフのうち、y 軸の 4 までと、x 軸の 8 までの範囲に注目させる。

※この部分から何がわかるのか考えさせる。

※「どこを見るのが大切なのか」がわかるようにする。

令和6年度 全国学力・学習状況調査報告書（中学校）

発 行 令和6年11月

発行者 名古屋市教育委員会

監 修 国語 埼玉大学准教授
本橋幸康

数学 一般財団法人 教育調査研究所研究部長
大橋 明